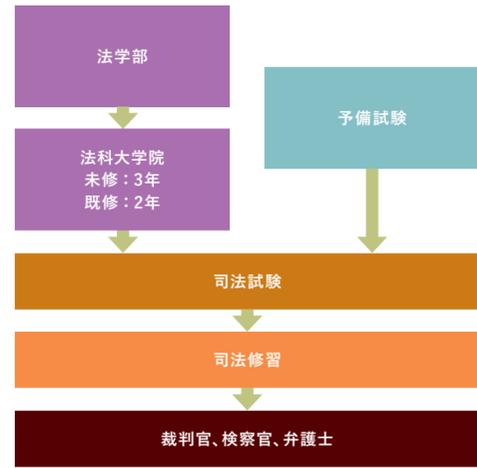


## 法曹への道のり

法曹(裁判官、検察官、弁護士)になるためには、司法試験に合格し、約1年間の司法修習を受けて、修了試験(いわゆる「二回試験」)に合格しなければなりません。

司法試験は、法科大学院課程の修了者、修了見込者および司法試験予備試験の合格者を対象に行われます。

したがって、みなさんにとっては、まず、法科大学院の入学試験に合格すること、または、予備試験に合格することが目標になります。



## 法学部での学び

### 法律学科の履修モデル

司法試験の試験科目は、憲法、民法、刑法、商法、民事訴訟法、刑事訴訟法、行政法の7法科目と、選択科目です。

法律学科では、①基礎科目を履修した後、②展開科目のうち上記の7法科目を履修することで、試験に必要な科目を体系的・段階的に学習することができます。

なお、法曹養成プログラムの履修を希望する人は、プログラム科目(とくに必修科目とその登録要件)を確認のうえ、科目登録を行ってください。

|   |                                                                                                                                                                           |
|---|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | <b>基礎科目</b><br>基本的人権概論、民法概論、刑法概論、商法概論、民事手続法概論、刑事手続法概論、行政法概論など12の登録必修科目                                                                                                    |
| 2 | <b>展開科目のうち、7法科目</b><br>憲法：統治の原理Ⅰ・Ⅱ、人権保障の原理Ⅰ・Ⅱなど<br>民法：民法Ⅰa(総則①)～民法Ⅵb(相続)<br>刑法：刑法総論Ⅰ・Ⅱ、刑法各論Ⅰ・Ⅱ<br>商法：会社法Ⅰ～Ⅲなど<br>民事訴訟法：民事訴訟法<br>刑事訴訟法：刑事訴訟法Ⅰ・Ⅱ<br>行政法：行政法総論Ⅰ・Ⅱ、行政救済法Ⅰ・Ⅱなど |
| 3 | <b>展開科目のうち、選択科目など</b><br>司法試験選択科目は、労働法、租税法、環境法、経済法、倒産法、知的財産法、国際関係(公法)、国際関係(私法)の8科目                                                                                        |

## 卒業生の声

### 弁護士

角川 正憲 (弁護士法人淀屋橋・山上合同)



私は、2017年に同志社大学法学部を卒業した後、京都大学法科大学院に在学中、司法試験予備試験に合格し、翌2018年に、司法試験に合格しました。今は、大阪の法律事務所で弁護士として執務に当たっています。

弁護士の仕事は、大きな責任を伴います。何時間働いたから評価されるというものではありません。また、自分の仕事が案件の結果を大きく左右するため、常に結果が求められる仕事でもあります。

ただ、頑張れば頑張るほど努力が結果に表れるし、大きな責任を伴うからこそとても大きなやりがいを感じられる仕事でもあります。また、企業に勤めていればお話しする機会がなかったような方に、耳を傾けて自分の話を聞いていただけるのは、弁護士であるからだとおもいます。

同志社大学在学中に所属していたゼミでは、ゼミ長として、討論会などのイベント活動に励みました。教員の方、ゼミの仲間や先輩・後輩との関わりを通じて、決して本を読むだけでは学べなかったようなことが学べたと感じています。基本的には司法試験の勉強に多くの時間を費やした大学生活でしたが、同志社大学での経験は、今でも貴重な財産になっていると感じます。

大学生生活は4年間と長いようで、終わってみればとても短いです。歴史ある京都の地で、勉強もそれ以外にも、色々なことにチャレンジしていただきたいと思っています。

### 法曹養成プログラム修了生

都竹 歩佳 (同志社大学大学院司法研究科進学)



私は、2019年に同志社大学法学部に入学しました。法学部に入学したときから弁護士になりたいと考えていました。そこで、1年でも早く法科大学院で司法試験合格に向けた勉強をしたいと考えたこと、また、法曹養成プログラムを選択すると、司法特講などの授業で論述の勉強ができることから、法曹養成プログラムを選択しました。実際に、司法特講では4回ほどの即日起案があり、司法修習生や弁護士の先生に添削していただきました。添削してもらったことで、自分の論述の癖や、どの科目・分野の知識が足りていないか等、修正すべき点を客観的に知ることができました。

法学部での勉強は、まず1年生のときに答案作成ゼミナールを履修し、ここで論述の基盤を作ることができました。3年生では、法曹養成プログラムの必修科目である司法特講などを履修し、知識のインプットとともに、手薄になっていた行政法、商法、民事訴訟法、刑事訴訟法の論述を学ぶことができました。また、1年生から3年生まで、大学の授業はしっかり受け、特に試験については、論述を意識した勉強をしていました。どこがなぜ論点になるのか、判例はどのように判断しているか等を理解することを意識しました。1・2年生の授業・試験で入れた知識が、3年生の授業や法科大学院入試のための勉強で生きてくることもあり、授業をおろそかにしないことが重要だと感じています。

### 法曹養成プログラム修了生

甲斐 夕月 (神戸大学大学院法学研究科進学)



私は同志社大学法学部を法曹養成プログラム修了者を対象とする早期卒業制度により卒業し、神戸大学法科大学院に進学しました。

法曹を志望し始めたのは入学した後で、それまでは全く考えていませんでした。大学生の貴重な時間を有意義に使いたいと思ったことがきっかけです。

勉強を進めるにあたって、同志社大学法学部の制度が私に特有の意義だと感じたのは法曹養成プログラムにおける独自科目です。大学院の先生方の授業を受講することができ、加えて授業内で作成した答案を弁護士の先生方等に添削していただけます。この貴重な経験を通して普段の授業で得た基礎知識をどのように答案に反映させればよいかの実践経験を積むことが出来ました。また、学部生の間に大学院の先生方の授業を受けられることで大学院進学ひいては司法試験合格を早い段階から現実的な目標として捉えることが出来ました。

私はまだ皆さんと同じように司法試験を目指す側の立場です。司法試験は難関で先が遠く見えるかもしれませんが、それを重荷に思うのではなく、その過程を楽しんで学んでいただければと思います。将来どのようなフィールドに立っても法的思考やその知識は役に立つと思います。

### 法曹養成プログラム修了生

岩永 一輝 (京都大学大学院法学研究科進学)



私は今年同志社大学法学部の法曹養成プログラムを修了し、春から京都大学法科大学院に進学します。

法曹を目指したきっかけは難関資格といわれる司法試験に挑戦してみたいという好奇心からでした。始めは明確なゴールもなく何となく勉強をしていました。しかし、勉強を重ねていく間に法律の楽しさを学び、法律を仕事にしたいと考えるようになり今に至ります。

私が同志社大学法学部の中で勉強を進めるにあたり有益に感じたものとして法曹養成プログラムの独自科目とゼミの2つが挙げられます。両制度に共通する最大のメリットとしては切磋琢磨することができる仲間に出会えることです。法曹を志望する仲間に出会うことは司法試験の勉強をするに当たって最も重要なことと言っても過言ではありません。例えば、私は夏休みに自主ゼミを組み数人で問題の起案と添削を行い、一人では学びにくい論文の構成等多くのことを学びました。独自科目特有のメリットとしては各週で起案の機会が設けられており、これを目の前の目標として勉強することで継続的な勉強が可能となり大きな力となりました。

司法試験の勉強は堅苦しく辛いというイメージがあるかとは思いますが、その分理解したときの達成感や楽しさも大きいです。また、私自身がそうなのですが、大学生活を楽しむ・遊ぶことも司法試験の勉強を両立することも可能です。少しでも興味があるのであれば一緒に司法試験を目指せばと思います。

# 法曹を目指すあなたへ

Doshisha University  
Faculty of Law

# 2023



## 法学部早期卒業制度

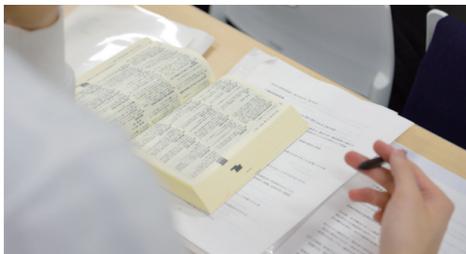
早期卒業は、3年次終了時において優秀な成績で卒業に必要な単位を修得した者に対し、学部が、特別に卒業を認定する制度です。早期卒業を希望する者は、2年次終了時に「希望登録」を行い、1年間、早期卒業に向けた指導を受ける必要があります。法曹を目指すみなさんが利用できる早期卒業制度は2つあり、併願することも可能です。

### ●本学大学院司法研究科進学希望者向け

本学大学院司法研究科(法科大学院)に進学する者を対象とした早期卒業制度です。

### ●法曹養成プログラム履修者向け

法曹養成プログラム履修者を対象とする早期卒業制度です。本学大学院司法研究科を含めたすべての法科大学院進学に利用することができます。



## 法科大学院との連携

### 法曹養成プログラム(法曹コース) \*2019年度以降生対象

法学部は、同志社大学大学院司法研究科および神戸大学(大学院法学研究科実務法律専攻)との間で法曹養成連携協定を締結し、「法曹養成プログラム」(法曹コース)を設けています。

法律学科の学生で、法曹養成プログラムを修了見込みの者は、同志社大学・神戸大学の法科大学院が実施する「5年一貫型教育選抜」(論文式試験を課さない)方式および「開放型選抜」(論文式試験を課す)方式の入学試験を受験することができます。また、上記以外の大学の法科大学院が実施する「開放型選抜」方式の入学試験を受験することもできます。

法曹養成プログラムの修了にあたっては、①必修科目である講義科目52単位および演習科目8単位の合計60単位を修得したうえで、②法曹養成プログラムの教育課程にかかる修得単位のGPAが3.0以上であり、かつ、③法科大学院入学選抜(特別選抜または一般選抜)を受験し、合格しなければなりません。



# 法曹養成プログラムの履修例

| 1年次                  |  | 2年次                                  |  | 3年次                                    |  | 4年次                      |  |
|----------------------|--|--------------------------------------|--|----------------------------------------|--|--------------------------|--|
| (統治の原理Ⅰ)             |  | (統治の原理Ⅱ)                             |  |                                        |  |                          |  |
| 民法Ⅰa(総則①)<br>民法Ⅱ(物権) |  | 民法Ⅰb(総則②)<br>民法Ⅲa(債権総論①)<br>民法Ⅲb(契約) |  | 民法Ⅳa(担保物権)<br>民法Ⅳb(債権総論②)<br>民法Ⅴ(不法行為) |  | 民法Ⅵa(親族)<br>民法Ⅵb(相続)     |  |
| 刑法総論Ⅰ                |  | 刑法総論Ⅱ                                |  | 刑法各論Ⅰ                                  |  | 刑法各論Ⅱ                    |  |
|                      |  |                                      |  | 民事訴訟法                                  |  |                          |  |
|                      |  |                                      |  | 刑事訴訟法Ⅰ                                 |  | 刑事訴訟法Ⅱ                   |  |
|                      |  |                                      |  | 行政法総論Ⅰ                                 |  | 行政法総論Ⅱ                   |  |
|                      |  |                                      |  | 憲法特講Ⅰ<br>憲法特講Ⅱ                         |  |                          |  |
|                      |  | 会社法特講Ⅰ                               |  | 会社法特講Ⅱ                                 |  |                          |  |
|                      |  |                                      |  |                                        |  | 行政法特講                    |  |
|                      |  |                                      |  | 司法特講Ⅰ<br>司法特講Ⅱ                         |  | 司法特講Ⅲ<br>司法特講Ⅳ           |  |
|                      |  |                                      |  |                                        |  | [修了要件]<br>60単位<br>(必修科目) |  |
|                      |  |                                      |  |                                        |  | GPA3.0<br>(必修+選択科目)      |  |
|                      |  |                                      |  |                                        |  | 法科大学院<br>入学試験合格          |  |

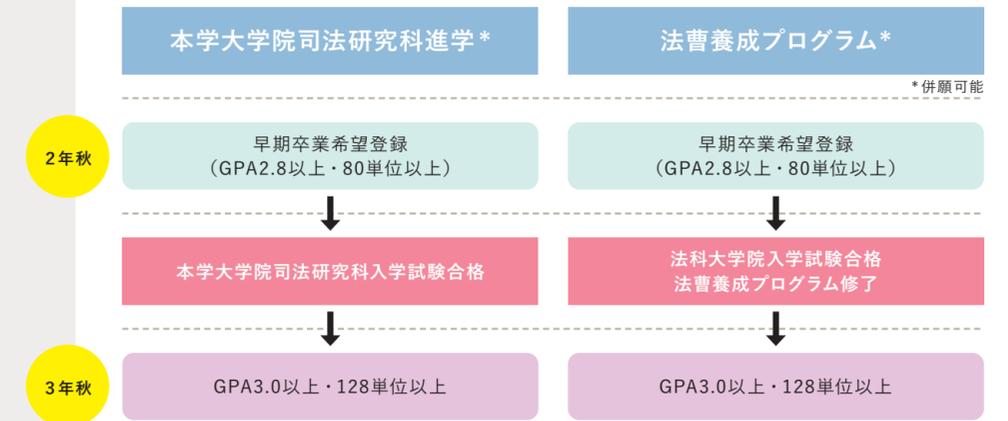
\*法曹養成プログラム選択科目:  
・リーガル・リサーチ  
・法社会学  
・現代社会学の展開  
・法哲学  
・現代法哲学の展開

\*\*独自科目は先行登録が必要

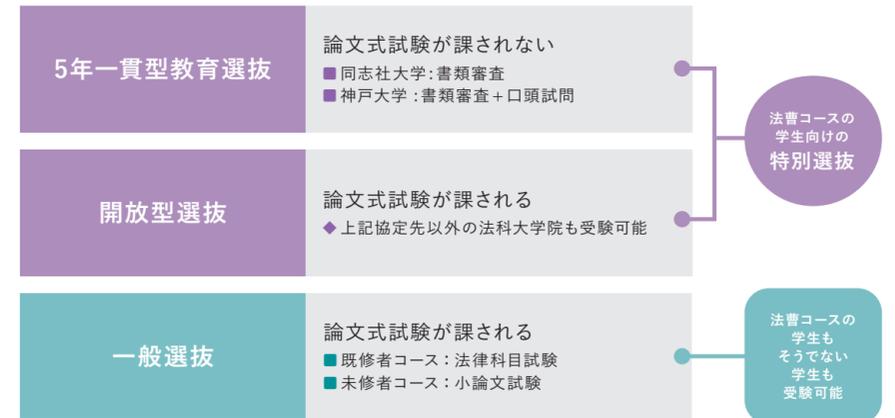
|       | 登録要件                                     | 定員               | 登録要件  | 定員                                     |
|-------|------------------------------------------|------------------|-------|----------------------------------------|
| 憲法特講  | 「統治の原理Ⅰ」または「統治の原理Ⅱ」の履修<br>法曹養成プログラム修了見込み | 50名程度<br>(成績で選考) | 行政法特講 | 法曹養成プログラム修了見込み                         |
| 会社法特講 | —                                        | 100名<br>(成績で選考)  | 司法特講  | 法曹養成プログラム科目のGPA2.8以上<br>法曹養成プログラム修了見込み |



## 早期卒業制度



## 法科大学院入学者選抜



## 法曹養成プログラム 修了実績 (2022年3月修了者)

|               |                                             |
|---------------|---------------------------------------------|
| 法曹養成プログラム修了者数 | 19名 (全員が早期卒業制度を利用)                          |
| 法科大学院 合格実績    | 同志社大学大学院司法研究科、神戸大学大学院法学研究科、<br>京都大学大学院法学研究科 |